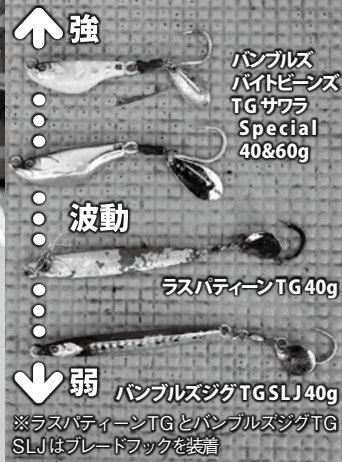




ヨッシー愛用ルアー

★ヨッシーは波動が弱い順にバンブルズジグTG SLJ、ラスパティーン、バイトビーンズと3種類を使い分けている



◀ブレードフックを付けた40グラムのバンブルズジグTG SLJで食わせ



★40グラムの鉛製ブレードジグでサワラをキャッチ。当日はヨッシーと並んでトップ2尾のトモキ

ヨッシーのメモリアルショット



●ヨッシーの取材ではヨッシーを始め、取材班の皆さんがエナジードリンクやチョコ、フルーツなど持ち込んで撮影が一段落するとモグモグタイムに突入。ヨッシーのお気に入りには鹿島一郎さんが毎回持ってくるチョコプレート。中でもバリバリとした食感がクセになる「紗々(さしゃ)」がお気に入りだ。

「早巻きの中にポーズを入れて食わせの間を作ったことがよかったです……のかもしれないけど、そうじゃないかも笑。はつきりした正解が分からないんだ」船着き場に戻ってから、ライターのタカハシゴーがタカハシゴー船長に、「釣れる人、釣れない人の差は？」と聞くと、「分からないんすよ」と即答だった。「この釣りに関して言えば、腕の差ってほとんどないんじゃないかと思うんすよね。」確かにアタリが多い人は多いし、出ない人は出ない。でも、今回アタリを出せた人が次回もまたたく出せない、なんてこともザラなんすよ。ヨッシーの言うとおりで、正解がないんす。船長としても同じです。昨日大釣りをしたポイントが、今日はすっからかん、なんてこともしょっちゅうある。

船長のポイント探しもクジ引きみたいなものだし、お客さんが釣れるかどうか運次第。でも、こういうギャンブル性こそが、サワラ釣りにハマる方が多い理由じゃないスかね……」やはりこの戦いは圧倒的にサワラが有利で、工夫やテクニクや経験や知恵がなかなか通用せず、神頼みなのだ。だが、クジ引き、ギャンブルと言われるほど運要素が大きいというところは、逆に言えばだれにでもまんべんなくチャンスがある、ということでもある。今回はタカハシゴー船長探船のもと、ライターであり永遠の初心者・タカハシゴーが10尾釣るかもしれないのだ。「巻きスピードを変化させてみたり、途中で止めを入れてみたり、ブレードジグの波動もその日の食いに合わせて調整することも必要だね……」。

ただ、それが正解かは本当に分からないんだ。やってみるしかないし、そこが東京湾サワラゲームの面白さなんだよね」ヨッシーにサゴシ級1尾をもったタカハシゴーは、刺身を食し、あまりのうまさに驚いた。そして「これが自分で釣った魚なら、もつと……」と、次回へ思いを馳せるのだった。東京湾のサワラゲームは、いくらハマっても一向に構わない、健全なギャンブルなのだ。



▲下船後、ライター高橋剛が高橋郷船長に質問する



▲今年サゴシもよく釣れる。このサイズでも脂が乗っておいしい

「ピュアな笑顔がまぶしい。だれかにヒットすると、バババツとアタリが連続する。が、そう長くは続かない。」「まだ群れが固まってないみたいスね。広く薄く魚がいる感じ」とタカハシゴー船長。そして左胸の間でもバラシ。今日のサワラは食いが浅い。「サゴシ(サワラの若魚)級が多いから、捕食がヘタなんすよ」とタカハシゴー船長が説明するそばから、ヨッシーが「きた!」と叫んだ。すんなりと寄ってくる。船が近づいて暴れ……ず、スポーンと海面を割って飛び出してきたのは、巨大なエソ。「最初はサワラかと思ったんだけどな。えへへ」すぐ後に右胸の間のお客さんも巨エソを釣った。さらに右ミヨシでサワラらしき魚がバラれた。その後、ついにヨッシーが本

気フアイトに入った。本命のサワラだ! 「着底から10巻きぐらいたとこでフツと軽くなったんだ。ルアーを食ってきることが分かったから、そのまま巻き続けたらドン! 最高だね!」ヨッシーが言うように、サワラのアタリは意外なほど小さいことが多い。そこでビックリ合

9時15分 右ミヨシのお客さんとトモキがサゴシをキャッチ。9時20分 ライターのタカハシゴーにアタリ。9時23分 ヨッシー、バラシ。9時32分 ヨッシー、バラシ。9時35分 イチロウ、バラシ。9時36分 ヨッシー、サゴシ級をキャッチ。右胸の間のお客さんも同サイズをキャッチ。10時17分 右胸の間のお客さんがサゴシをキャッチ。10時45分 トモキ、バラシ。11時00分 ヨッシー、バラシ。11時20分 ヨッシー、海面バラシ。タカハシゴーにアタリ。11時36分 ヨッシー、バラシ。11時40分 右ミヨシのお客さんがキャッチ。

だれかがアタリを出すとはしばらく続き、パタツと止むことが分かる。そして終盤にかけてアタリが減ってしまったことも。この日は大潮で、干潮が10時半。上げ潮に期待しつつ浦安沖へ移動したが、不発だった。結局、船中10尾。E2F取材班は、ヨッシーとトモキが2尾をキャッチし、イチロウとタカハシゴーは0尾に終わった。「この釣りはクジ引きだから」とヨッシーは繰り返す。

11時42分 ヨッシー、バラシ。12時23分 タカハシゴー、シーバスを海面バラシ。14時05分 ヨッシーとタカハシゴー、ほぼ同時にアタリ。14時50分 沖揚がり。

わせをしてしまうと、まずバレる。慌てずに、サワラが反転してしっかりフッキングするまで巻き続けるのが鉄則だ。基本どおりにしっかりとサワラをフッキングにまで持ち込んだヨッシー、会心の1尾だった。ポツリポツリとアタリはある。見逃しは多々あれど、把握できた限りではこんな感じだ。

東京湾でだれもが楽しめる健全なギャンブルとは?